

北洋道札中元
津嘉神大會
西三郎御内親族



二月四日
新

東京市日本橋區西河岸町六番地

島平
旅館
平野平四郎



電話本局
特長
長一三八一番
八

旅館
平野平四郎

按此卷大半是今年の事なる所

ありまテ一萬件を出
ひ北の咸行賄のみばる
ち而シテ本雅リ方敷
先とすナシ神ナニてわす
代尚士ノ自己咸行と種々
太政方面事而下草記
一正すもほり東月上商の
必要名之ルト柳少之の子も
甚起人ナ名は集乞一五午内
アモ資の上機械其化一セツ迄
えとなし黙と必要名之と極
まれを以日あ永ナラあナナ代ナ
往けりホ永ナラす也と墨渦ヤキナリ
シムシムあぐた列リ萬件を出
能う器取ツクナム太政出ケド而モ
因ニヘキニ見サレバカトリ思ヒム
初手を一發利されど何ふひし
かと横幕な枝を打ち及ヒ唯
芦谷の体面を傷サキスね定意
沐サリ大五午内の口に御川候と
里山外は有ハ高見リテや

初号を一發刊されど何ふひし
かと横著な夜をおちては此
芦の体面を傷せざるね注意
淋哉は五十四の口に廻川侯と
是處外れぬ而へ真見つゝやも
リをもがまわせうヨリ以じの勢力
力氣をあしくうやうやく

明後日先君はお詫び
よこけ心地の別席カート見
本身も見、併一小ナ覽の上大
改、又見よとが老兄の下百
七十枚化仰御うかや放教お
うかうと、よりやる名社の件
り良案あれをりまあお前で
やまとちゆんびゆはりよ成務
せても了決心、うまいとんとれ
一萬円を已ゆまくお

（墨也とすか）